

## 平和な日曜日

空港よりタクシーで那覇市内のメインストリート・国際通りで下車した。この日は日曜日で国際通りは歩行者天国で車の乗り入れは一切禁止。家族連れが道路いっぱいにシートを敷き、子供中心とした温かい家庭、和やかなひと時を存分に楽しんでいた。それはまるで平和を満喫し、平安を喜んでいるように私には見えた。

このようなのどかな風景を目の当たりにして、ふと戦時中の悲惨な沖縄戦が頭を過った。日本国内での最大規模の陸戦であり日米最後の戦闘は、1945(昭和20)年3月26日よりアメリカ軍が沖縄戦の終結宣言する7月2日まで続いた。戦争ほど恐ろしい物は無い。人間が人間を殺し合う、その現場は悲惨の一言であり地獄絵そのものであるかだ。



この結果、日本側の死者・行方不明者は18万8千余人。沖縄出身者12万2千余人。そのうち9万4千人(推定)が沖縄県の民間人であった。更にアメリカ軍側の死者・行方不明者は1万2千人。負傷者7万2千人となり、日米共に甚大なる取り返しのつかない尊い犠牲者を出してしまった。「ひめゆり部隊」をはじめとする学徒隊の悲劇。断崖絶壁から婦女が次々に身を投げるフィルムを見たことも……。

一番苦勞・苦しんだ沖縄が、日本で一番幸せになって頂きたいと願ってやまない。紺碧の海は美しく、南国の明るい性格は辛い過去を忘れさせてくれる。

撮影 2011年春



